

最もこのことを理解し実行しようとしているのが小沢一郎であり、小沢の薫陶を受けた政治家・官僚たちであるのです。

わが国のルール（法律）に則った上で、最短での目的実現のために、これまで小沢一郎は、走るべきときに走り、そして引くべきときに引いてきました。

ところがクーデター政権によるこれまで積み重ねてきたその成果を無効化せんがためのなりふり構わぬ暴挙の数々です。

困難かつ遠大なこの事業を完遂するために小沢自身が先頭に立つのは、いよいよそうする他に手立てが無くなったときなのです。

そして今、小沢は決意を固めて立ち上がりました。

吾らにできること、それはく小沢一郎以外のリーダーを、この国の危機を乗り切るための指導者として認めないという自らの意志を、可能なあらゆる手段を以って確認し合う事でしょう。

政治家よ

マスコミ 評論家よ

今裁きの場におかれているのはあなた自身なのだということを思い知るべし！

小沢一郎は何をめざす？

～私たちの望むものは？



小沢一郎が代表選に臨むにあたってまず打ち出したのが「2009マニフェスト」の実現です。

菅一仙石政権によってマニフェストの約束事はことごとく無視されてきました。

ここで確認しておきましょう。

マニフェスト（政権公約）とは決して**双務契約（当事者の双方が履行に責任を持つ）**ではないのです。

政権を目指す当時の民主党が主権者国民に対して提示した提案。

われらがその内容に同意して初めて双方向の意思に基づいた契約となるのであり、**提示した側からの拒否権は存在しないと解すべきです。**

小沢は当たり前前にその原則を主張しているに過ぎません。

主権者国民の同意なしに勝手にマニフェスト無視を公言するのは、「**公約違反などたいした問題ではない**」と言い放った小泉の暴言に匹敵する、あるまじき態度なのです。

2009マニフェストの履行という今回の小沢の主張は、実はそこにとどまるものではありません。

小沢一郎の求めるもの、それは、**<日本をごく普通の「独立」国とする>**

このことがすべてです。

これまでの小沢発言、彼の行動のすべては、**具体的なある政策の実現**を目指す、あるいは**ある階層またはある集団の利益**を目指す、というよりは

<アメリカの属国日本を、独立した国として世界の中で大手を振って渡り歩ける国とする>

この一点に尽きます。

前回のチラシで指摘した「小沢一郎を恐れる者達」というのは、**実は日本の独立を何よりも怖れる者達**に他ならないのです。

私たちが望むもの、それは、

自己の研鑽努力がそのまま自己の向上に結びつき、

そして**周りの他者の向上にも寄与**しうる。

他者の利益のための**強いられた奉仕**ではなく、ましてや**他国の利益への奉仕**ではさらさらない。

自らの家族を、

周囲の知人・友人を、

そして**自らの郷土を、暮らす地域を、**

さらにその延長として**自らが生を享けたこの国を、**

この地球を、何の銜いもなく愛することができる、

そんな日常を送ることができる。

政治家といい、公務員（官僚）といい、

およそ**私たちの税によって禄を得る者達の務めは、**

そんな日常が可能であるようには**だかる障害を除き、環境を整備**することであるべきです。